

「シビル・ベテランズ&ボランティアズ」活動状況（4）

大阪市立大学 フェロー会員 古田 均（CVV 代表）

1. まえがき

シビル・ベテランズ&ボランティアズ（CVV）は1996年4月に関西在住の土木技術者により構想され、シニア技術者の土木分野での社会貢献を目指して継続的に活動してきた。その後、創設期メンバーの高齢化が進んだことから新たなメンバーを招集するとともに、2016年度から2年間、土木学会関西支部共同研究Gr.としての支援を受け、将来を見据えた組織の在り方を検討した。2018年6月にCVV総会を開催して会則を制定し、会員・会友を明確にして活動を推進してきた。ここに2019年度の主なCVV活動を報告する。

2. 活動項目と成果

2-1. 定例会・活動資金 1～2カ月ごとの定例会では、その間の活動報告およびその後の活動企画に関する討議、ならびに今後の活動方針や組織の在り方等を議論している。活動資金は支部助成金30万円で、主な支出は会員交通費、橋梁調査経費、書籍購入、講師旅費等である。

2-2. 「浪速の名橋50選」活用行事 「浪速の名橋50選」は、松村博氏（元大阪市）が選定し、20年以上前に土木学会関西支部HPにリンクされたものを基に調査を行い2016年度に再掲載したものである。その後2年間で追補名橋として22橋を選定し「浪速の名橋50選」と合わせて活用することとして取り組みを進めており、2019年度も以下の行事を実施した。

(1) 学生への技術伝承 土木を学ぶ学生を対象に「土木の面白さ」を知らせる活動の一環として、昨年に続いて関西の大学、高専の学生と淀川沿いを歩いて橋巡りをした(写真-1)。豊里大橋から菅原城北大橋、毛馬閘門、淀川大堰、毛馬橋、長柄橋、新淀川大橋まで、桁橋から斜張橋、アーチ、トラスと様々なタイプの橋梁をまとめて見学する約7kmの行程であり、事前の座学と少人数の班分けで実施し好評を得た。来年度は、工業高校生も対象に加えることを検討している。



写真-1 淀川の橋巡り

(2) 関西支部「ぶら・土木」への協力 2017年度から毎年引き続いて「ぶら・土木」とCVVとのコラボで「舟でめぐる なにわ八百八橋 ～橋のウラ側魅せます～」と題したイベントを実施した(写真-2)。今回はまず、天満橋近くの会議室にて大阪市の都市計画の歴史や各橋の概要、エピソードなどを学んだ後、天満橋の市電遺構を陸上から見学し、八軒屋浜からチャーター船に乗り込み、大川・東横堀川・道頓堀川に架る橋を船上から愛でるクルージングを楽しんだ。



写真-2 ぶら・土木

(3) Osaka Metro 大阪・まち・再発見「ぶらりウォーク」への協力 2018年度より、Osaka Metroが主催する大阪・まち・再発見「ぶらりウォーク」という市民対象のウォーキングイベントに、ボランティアガイドとしてCVVが協力し今年度は8名が参加した。今回は、大阪メトロ玉出駅から大阪港駅までの約12kmのコースで、その間に千本松大橋、千歳橋、なみはや大橋を通過することから、なみはや大橋上で大阪湾岸部の長大橋梁群の説明をした(写真-3)。対象橋梁は、前記3橋に加え、新木津川大橋、港大橋、天保山大橋、此花大橋の7橋である。晴天の下1002名の市民が参加して、CVVの説明ポイントには200名を超える人が立ち寄り、橋梁等の説明に聞き入れられた。また大阪市街が一望できるビューポイントであることから、絶景を眺めた写真撮影でも喜んでもらった。このイベントへの協力はCVVと市民との貴重な接点の場となることから、今後も継続していく予定である。



写真-3 ぶらりウォーク

2-3. 追補名橋調査活動 2019年度は自転車や交通機関を利用した淀川沿いの土木施設の調査を企画した。淀川の河口から京都伏見まであたりを対象として、徒歩や船では回り切れない土木施設を効率よく調査し、その成果をCVVの対外活動に利用することとした。第1回目は淀川右岸河口付近とし、事前に下見を行って自転車が安全に走行できるコースを選定した。第2回は淀川左岸河口付近とし、路線バスや渡船を利用したコースを選定した。表-1に現地調査の一覧を示す（調査の詳細は、CVVのHP（<http://CVV.jp/>）～「イベント」～「市民見学会の記録」を参照）。

表-1 名橋追補橋梁の現地調査一覧

No.	実施日	対象の橋、土木施設	利用交通
1	2019/4/6	神崎川橋、中島川橋、阪神なんば線淀川橋梁(工事中)、西島水門、矢倉緑地、淀川高潮堤防、阪神閘門	自転車、電車
2	2019/12/3	常吉大橋、此花大橋、天保山大橋、梅町大橋、正蓮寺川大橋、伝法水門、スーパー堤防、正蓮寺川公園、天保山渡船	徒歩、路線バス、電車

(1) 淀川河口部右岸の橋(表-1のNo.1の2橋) 環境対策として1970年頃に大野川筋を埋め立て、その跡地利用として造られた散策やサイクリングが出来る緑陰道路を自転車で見学した。途上にある姫島神社や西島水門を巡り、淀川右岸先端の矢倉緑地まで走行した。矢倉緑地の先端は自然石を用いた荒磯自然護岸で整備さ

れており、1km先の海上には阪神高速湾岸線の橋梁群〔神崎川橋、中島川橋、中島PA（パーキングエリア）〕が望める(写真-4)。中島PAは我が国最初の海上PAで、中島本線料金所と合わせると100m幅の広大な構造物である。帰りは堤防上を遡り、阪神なんば線淀川橋梁の高潮対策用の陸閘を見学した。



写真-4 中島川橋

(2) 淀川河口部左岸の橋(表-1のNo.2の5橋) 路線バスを乗り継ぎ、三本足の霊鳥「八咫鳥」の伝承が残る鴉宮、森巢橋を経て、伝法水門から淀川左岸を踏査した。阪神大震災により崩れた堤防がスーパー堤防として改築され、引き続き整備されている。堤防沿いに「常吉新田の碑」があり、旧新田の周囲は大正時代まで「千本松」として知られた美しい松並木があったと伝承されている。常吉大橋から正蓮寺川河口に架かる長大橋梁群(此花大橋、正蓮寺川橋、梅町大橋、天保山大橋、港大橋、神崎川橋)を眺望(写真-5)して舞洲に渡り、桜島を経て渡船で天保山に渡った。



写真-5 此花大橋

2-4. 支援活動内容

(1) 神戸市「土木の学校」支援 神戸市では「土木の学校」において、①高校生・大学生を対象とした「橋梁模型コンテスト」の開催、②春休み・夏休み・土木の日に開催する小学生を対象とした「土木の教室」、③神戸市主催の各種イベントへの協力などに取り組んでいる。CVVではその趣旨に賛同し、過年度より「土木の学校」に運営委員として参画するとともに、神戸市からの要請に応じて、種々の行事にメンバー数人を派遣し、市民が土木への理解を深める活動に協力している。

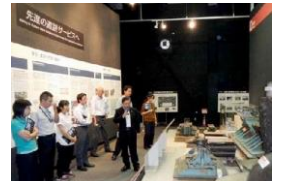


写真-5 技術会議講習会

(2) 近畿地方整備局「スペシャリスト技術会議」への支援 近畿地整における、若手職員への技術伝承と技術力の向上を目的に上げた「スペシャリスト技術会議」に、橋梁部門の技術的支援として講師を派遣した。講習会は2回実施し、第1回は阪神高速資料保管庫において地震防災、橋梁事故例について講演した(写真-5)。第2回は大阪湾岸線を念頭に長支間橋の建設事例、橋梁計画時の留意点について講演した。

(3) 同志社中学校技術科への支援 土木学会誌に同志社中学技術科でのユニークな取り組みが紹介されたため同中学の担当教員にコンタクトし、CVVの現場見学会と特別授業が実現した(写真-6)。現場見学会は大阪府が事業を進める安威川ダムで実施し、生徒5名と担当教員が参加した。また、特別授業では1年生4クラスで、CVVメンバーがそれぞれ実務経験談を紹介した。



写真-6 安威川ダム見学

(4) インフラメンテナンス国民会議への参加 自治体支援の一環にて革新的技術の実用化を目指す国民会議の活動は2019年3月自治体ニーズ収集からスタートし、2020年4月の実証実験までが1クールである。CVVはこの活動に2019年5月よりファシリテータとして参画し、シーズ技術の評価および自治体支援の具体内容の把握に努めた。国民会議として、引続き2020年3月から新クールがスタートする。CVVの当初目標とした「自治体への人的支援の模索活動」と直結するものではないが、2020年度も引き続き参画し、自治体支援策を模索する。

2-5. 他学会・他グループとの協同

(1) 地盤工学会関西支部への協力 2018年度「第2回地盤工学サロン」において「シニア技術者の社会貢献」をテーマとするパネルディスカッションのパネリストの一員として参画しCVVの活動を紹介し、同テーマの議論に加わった。今年度、関西支部幹事が定例会に参加し、若手セミナーへの協力を要請された。

(2) ツタワルドボク全国大会参加 九州を中心に土木広報や技術伝承活動に取り組んでいる(一社)ツタワルドボク主催の「ツタワルドボク学会2019」が6月に福岡市で開催された。そこで、活動の参考とするため講演会、トークセッションに参加し、参加者との交流を図った。

2-6. CVV活動の表彰 70年の歴史を有する関西道路研究会では毎年表彰を実施しているが、CVVメンバーの多くが同研究会会員であることから、大阪の橋を活用した土木広報や技術伝承活動実績が「優秀業績賞」として表彰された。また、2019年度創設の土木学会田中賞選考委員会「かけはし賞」は全国大会年次学術講演会の「橋と社会」ならびに「橋梁計画」セッションでの発表に対して授与されるもので、「橋と社会」への投稿¹⁾が同賞を受賞した(写真-7)。CVV活動を広く周知することにつながると期待している。



写真-7 かけはし賞

3. あとがき

今年度、上記のように中学生に土木技術を紹介する機会を得たが、小学生への働きかけを目的に大阪市児童いきいき放課後事業(いわゆる学童保育)を見学し、CVVが貢献できる場を模索している。さらに新たな会員を加え、シニア技術者の知恵・知識の伝承等の活動に取り組んでいく予定である。

参考文献 1) 黒山, 古田, 野坂, 武: 「大阪の橋」を活用した技術伝承・市民広報の取り組み～CVVの活動～, 土木学会全国大会第74回年次学術講演会概要集CS7-10, 2019年9月。